

医院だより

令和8年5月(274)

秋山医院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

皐月(さつき) 別名 早苗月(さなえつき)・

橘月(たちばなつき) 五月雨月(さみだれつき)
月見ず月・五月(さつき)・たぐさ月

陰暦五月の異名。陽暦の六月ごろにあたる。語源には諸説があつて、小苗(さなえ)月、五月雨月の略という説もあるが、早苗月の略とみるのが穏当であろう。橘の花が咲くので橘月ともいい、田植えが始まる月である。また五月雨の空が垂れこめて、夜空に月を見ることが稀なので、月見ず月という。なお古俳諧では「五月」と書いて「さつき」と読ませるのが通例である。

五月まぢ紺屋に横の幟かな 也 有
庭土に皐月の蠅の親しきよ 芥川龍之介

(講談社「カラー図説日本大歳時記」)

サラサドウダン (赤城自然園)



目次(頁)

- 1 五月の異称、五月の花、五月の言葉
- 2 五月の暦、お知らせ、診療案内、健康
テレフォン、
- 3 大岡 信選集 けんこう(百九十六)
- 4 ひとくちメモ (3) 大腸がん
院長のひとりごと(242)

『こはぜ』のこと

『五月の花』

躑躅(つじ)・梅檀(せんだん)・水芭蕉(みずばしよ)
う・白根葵(しらねあおい)・锚草(いかりそう)・浜
屋顔(はまひるがお)・甘野老(あまごころ)・白詰
草(しろつめぐさ)・赤詰草(あかつめぐさ)・水芭
蕉(みずばしよ)・藤(ふじ)・ライラック・芍薬(し
やくやく)・牡丹(ぼたん)・鈴蘭(すずらん)・あや
め・杜若(かきつばた)

『五月の言葉』

一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊
にあずかるようになり、神の素晴らしい言葉と来
たるべき世の力を体験しながら、その後には墮落し
たもの場合には、再び悔い改めに立ち帰らせる
ことはできません。神の子を自分の手で改めて十
字架に付け、侮辱するものだからです。(ヘブライ
人への手紙第六章四―六節)

神に逆らったからといってその刑罰として直ちに病いにかかり、貧に迫り、または社会の地位を失うものではない。否、多くの場合においては身の境遇の改善は神を捨て去った結果として来るものである。

神に逆らった観面(てきめん)の刑罰は品性の墮落である。すなわち聖いことと高いことが見えなくなつて、卑しいことと低いことを追求するようになることである。しかしながらこれは最も恐るべき刑罰であつて、人にとつて実はこれよりも重い刑罰はないのである。そうしてこの刑罰の特に重いわけはこれを受けた者がその刑罰であることを解せないことである。

わたしたちは神に祈りどんな他の刑罰を受けてもこの恐るべき品性墮落の刑罰を受けないように努めなければならぬ。

(内村鑑三「一日一生」)

「五月の暦」

- 一日 メーデー
- 二日 八十八夜
- 三日 憲法記念日
- 四日 みどりの日
- 五日 子どもの日、立夏
- 六日 振替休日
- 八日 世界赤十字デー

十日 母の日、愛鳥週間

十二日 看護の日

十五日 沖縄本土復帰記念日、

京都葵祭、伊豆下田黒船祭

二十一日 親鸞上人誕生会

二十三日 相馬野馬追大祭

お知らせ

一、マイナンバーカード、資格証明書で 受付を行っています。

二、診療案内

『午後診療』では通常の診療のほか、

『予約診療』もできますので時間調整が必要な方はご利用ください。

予約は電話でもできます。

○当番医 五月五日(水)

『診療案内』

- 一般外来診療
- 往診・在宅医療(ご相談ください)
- 骨粗鬆症の診療 ○ピロリ菌の診断・除菌
- CT、MRI、PETの予約
- 胃・大腸内視鏡
- インフルエンザ・新型コロナウイルス・肺炎球菌・帯状疱疹ワクチンなど

三、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

<http://www.rajin.com/kenko/>

電話〇二七一一三四―四九七〇

月	ストレスと糖尿病
火	乳頭分泌を伴う疾患について
水	削らなくてもよいむし歯
木	検尿で潜血があるといわれた
金	慢性疲労症候群
土日	子宮脱について

曾孫(ひま)に聞かせるむかし話



大岡 信著 『折々のうた』(富安風生、冬秋二題)
むつかしき辭表の辭の字冬夕焼

富安風生

『晩涼』(昭三〇)所収。風生は昭和一二年通信次官を最後に退官し、俳句一筋の生活になったが、郵政関係の重要な役職につくことも多く、昭和二十五年には電波監理委員会委員長に就任した。しかし健康を害し、翌年暮れに辞表を提出、二十七年二月にこの職を免ぜられた。これはその時の句である。今では『辭』の字を楽々と書ける人の数はますます減っているだろう。『龜』の正字などは、さらに難物。

(註) 参考までに、「辭」「龜」

「露寒や 凜々しき」は美しき

富安風生

『村住』(昭二二)所収。晩秋の季語には「寒」のつく語「やや寒」「うそ寒」「肌寒」「朝寒」「夜寒」ほか。これらのどれもが、あてはめて見ればわかるが、この句には不似合いだろう。七五に合うのは「露寒」だけ。「露」と「凜々し」とが映発し合うからである。俳句では語感が一句の成否を左右する。石田波郷の句に「桔梗(きちこう)や男も汚れてはならず」があるが、これも同じことを考えさせる句。「桔梗」一語で決まった。

けんこう(百九十五)

群馬県感染症発生動向調査より(17週)

(群馬県衛生環境研究所感染制御センター)

★A型溶血性連鎖球菌咽頭炎が一部の地域で多く報告されています。

咳やくしゃみのしぶきに含まれる菌を吸い込んだり、汚染された手で口や鼻を触ることにより感染します。

★石鹸と流水を使った手洗いを行いましょう
★全国で麻しん(はしか)の患者数が昨年より速いペースで増加しています。

予防にはワクチンが有効です。
一歳児と小学校入学前の1年間に該当する年齢の児は原則無料で予防接種を受けられます。

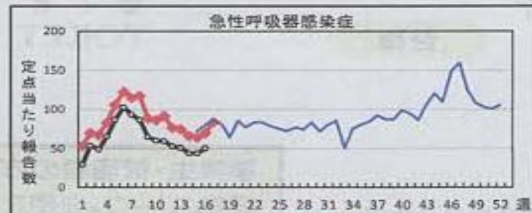
★感染性胃腸炎の報告が続いています

春は乳幼児を中心に、ロタウイルスによる胃腸炎が流行し易い時期です。感染性胃腸炎は、食品や手についたウイルスや細菌が口から入ることで感染します。トイレの後やオムツ交換の後は石鹸で丁寧に手を洗いましう。また嘔吐物や糞便で汚染されたものの消毒には次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)が有効です。

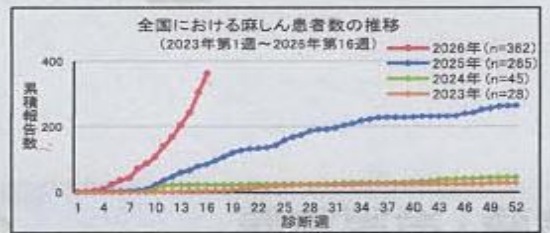
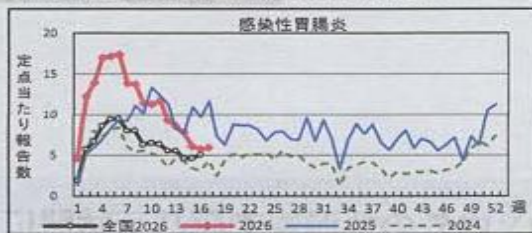
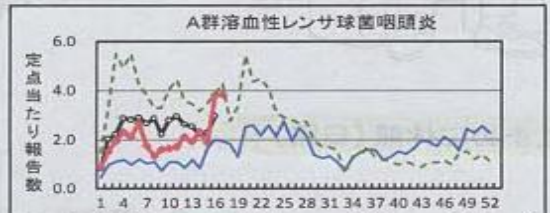
■第17週の注目疾病

(定点当たり報告数)

疾病名	16週	17週	北毛地域	西毛地域	中毛地域	東毛地域
急性呼吸器感染症	69.96	83.80	35.00	79.20	93.42	104.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.80	3.84	2.00	3.63	3.71	5.00
新型コロナウイルス感染症	0.78	1.07	1.67	1.27	1.42	0.17
感染性胃腸炎	5.76	5.92	2.00	7.13	7.14	5.00



※2025年第15週から急性呼吸器感染症定点が設置されました。



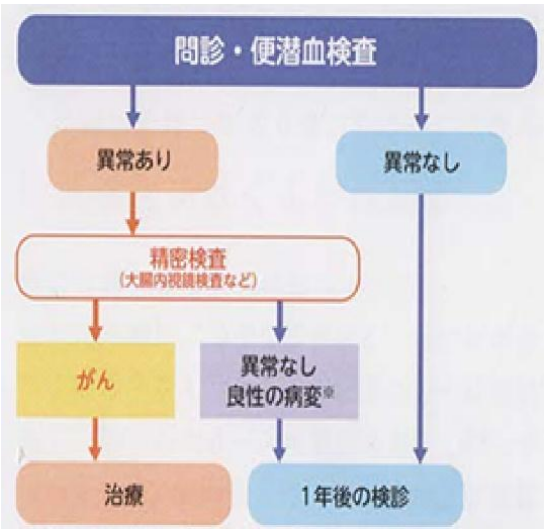
ひとくちメモ(3)

(大腸がんについて)

(この項は2026(4)日本医師会発行「健康ガイド」(601)を参考にしています。)

1 大腸がんは早く見つければ治るがんです

- (1) 大腸がんは、日本人に多いがんで年齢とともに増えていきます。
- (2) 早期発見で適切な治療を受ければ、ほぼ治ることが分かっています。
- (3) 市区町村では40歳以上の人が対象で、流れは図のようです。



2 大腸がん検診では何を調べるのか?

「便潜血検査」です。

便潜血検査は「今回調べた便に血が混じっていたか、いなかったか?」という検査です。混じっていたほうが「大腸に疾患がある可能性が高い」ということで、陰性であっても「大腸がんがある可能性が低い」というだけで

「がんやほかの疾患がまったく何もない」ということではありません。

3 精査が必要と言われたら

精査が必要

←

大腸内視鏡検査(大腸カメラ)ファイバー

院長のひとりごと(242)

『こはぜ』のこと

◇最初やったのがヒトだったか、あるいは昆虫などの

生き物だったか知らない。生き物にとって、熱かったり冷たかったりした地面や石の上を移動することは、活動範囲を拡張できるかどうかという種族全体の命がけの選択であっただろう。

◆熱い地面、石の上、あるいは山火事でも同じである。火のないところを探すか、土か木の葉を敷き詰めて熱を遮蔽してそこを渡るしかなかった。

◇ところがその遮蔽物を自分の身に装着できれば、『もっと活動がスムーズになる』ことに気が付いたヒトは足に木の葉か草を巻き付けて歩いてみたに違いない。

さらに布を発明してからは、その密着性、利用のしやすさが増し、刺激の強い地面を移動する速度を上げてゆき、さらに布を袋状にすれば脱着しやすくなり、口の部分をひもで縛ってずり落ちるのを防ぐことで効率は一層に上がっていっただろう。

口の部分を縦に割けば袋を足の太さに合わせて調節して装着することができ、どんな体形の脚(あし)にも程よく密着させることがで

きることもだんだん会得していったのであろう。

◆裂かれて二枚になった箇所を固い木の枝などで適度の間隔でとめれば脱着も容易になることも知っていったに違いない。



◇足袋（たび）は少し距離を置いて眺め、その歴史に思いをはせると興味がわいてくる。木の枝の代りに対側に付けた硬めの爪（つめ）形の板を対側に直角に張った糸のところに引っ掛ければ脱着が容易になり利便性が増す。

◆『足袋』の字は「足の袋」で意味をぴったり表すが、「たび」とは読めない漢字である。しかし「たび」をより使いやすくという願望の歴史が原始時代から現代までずっとつながっている経過が順番だっで見えるようで、ちょうど古代人と

の会話を交わしている気持ちにさえなる。◇ひっかける爪状のものを「こはぜ」と呼ぶのだそうだが、なぜそう呼ぶのか納得がいく説明にまだ出会っていない。



はぜ

『こはぜ』とよぶのだから、『ハゼ』の葉の写真を調べてみたら、葉の付き方が、足袋のこはぜの並びに似ていた。それで「こはぜ」と呼んだのかもしれないと考えてみたが、そういう説は見当たらないので他に新しい知見を得たいと考えている。「山椒の葉っぱ」でもいいんだけど。

◆わたしと足袋の出会いが小学校に上がる前のことで、当時は現在のように靴下を履いている子供はなく、履くと言えば皆、足袋であった。私は爪を反対側の糸にひっかけてその先端を手前に倒すという指作業がなかなかできず、このころからすでに「この子は不器用な子だな」

という評価を母から下されてしまっていたようだ。子供心に、「自分は不器用なんだ」と抵抗することなく素直に認めてしまっていた。

それ以来、今に至るまで何か新しい物事を行うときは、私にはいつも、『私は不器用者』という引け目が付きまとい、緊張して体が硬くなり、みごとに「不器用」を人前に晒すことになった。

◇もしも、私が初めて不器用を演じたとき

「大丈夫、慣れればできるようになるよ」と母が言ってくれていたなら、もう少しは「器用」になっていたかもしれないと、正直思っていた。

人生の出だしから波乱万丈な滑り出したったというわけです。

◆大学生時代、弓道の練習でベンチに腰掛けて一年先輩と話を交わす機会がありました。その先輩が

「秋山は、卒業したら何をしたいと考えているんだ？」

と声をかけてくれました。

「ぼくは、へき地医療をやりたいと考えています。」

「へき地医療をやりたいのなら、外科の訓練もやらなくてはならないな」

「でも、僕は子供のころから不器用なので、それが心配なのです」と言うと、

6 「今は麻酔が発達しているから、焦らずに丁寧によれば（不器用でも）やれるよ」

◇同じ弓道部の先輩で外科教室に入っている方も既におられたので、私もあまり深い考えもせずに外科に進路を決めたのでした。

◆開業医であった義兄は「内科で広い分野の知識を勉強しておくほうがよいのだが・・」と姉を介してアドバイスしてくれたのですが、今考えると医家を何代もつないできた義兄のアドバイスの意味深さをいまになってようやく知ることになっていきます。

◆卒業して五十年経った。おとし、突然電話が来た。一学年上のひとであったが生まれ年は同じで、学生時代は二人で弓を引くことが多く、学生時代は弓一色の二人であった。

電話では
「二年後に二人で弓を引いて、お互いの喜寿を祝いあおうではないか」

といわれ、考えても見なかったことに驚き、また発想の爽やかさに即座に

『それはいいですね、やりましょう』と応じました。とはいえ、二人とも弓を置いてもう五〇年も経っていたのでした。

◆それから弓と矢、弓懸けなどを買いそろえ、それぞれ住んでいるところで思い思いに練習を始めました。藤岡には風情のある市民弓道場があり、教えてくれる人も含めほとんどが自分の子どもか孫くらいの若者たちに交じって週一回道場で弓を引くことになりました。

◇弓道具屋さんにも息子さんの世代になっていました。学生時代に使っていた矢をもつて行くと「ああこれは父の作、これは祖父の作品」と観ていました。50年前に作ってもらったその矢を今も引いていることは弓具屋さんにも誇らしいことでしたでしょう。

◆弓道着をつけることも五十年ぶり、黒帯でお腹をへこましながらグツと締めると帯の生地同士が擦れ合って、キュツ、キュツと音を立てて締まっていきます。最後に袴をつけます。

◇何回かそのように繰り返して、ある日のこと、支度の最初で足袋をはき始めたとき、

「そういえば、自分と不器用なわたしのかかりあい的人生は、子供のころこの足袋を履くことから始まって今につながっていたのだなあ」と感慨深い気持ちになりました。

上達しない弓道人である私の慰めは、
論語のなかの孔子の言葉に言い尽くされています。

子曰、

これを知る者はこれを好む者に如かず
これを好む者はこれを楽しむ者に如かず

論語 雍也編 第六 18

小椎(こじい)・円(つぶら)椎(群馬の森)

